

や ま び こ

学力特集号

平成30年10月26日
北九州市立本城小学校 校長 松井和典

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

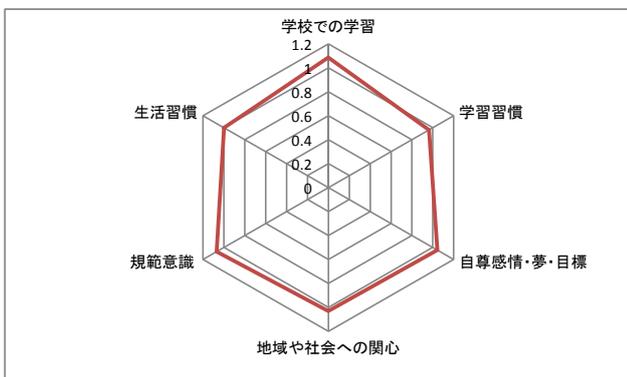
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・「読むこと」「書くこと」に課題があり、文章全体の構成を考えることが苦手です。 ・文の中で漢字を正しく使うことができます。 ・構成を考えて書く、相手や場面に応じて適切に敬語を使うことが苦手です。	下回っています。
国語B	・「書くこと」に課題が見られます。 ・「話し合い」の際の司会の役割について考えることができます。 ・目的や意図に応じて文章の構成を考えることが苦手です。	下回っています。
算数A	・「数と計算」「図形」の領域に課題が見られます。 ・2つの量の混み具合を調べる際の比べ方を理解しています。 ・円周や直径、角度等、図形に関わる知識や技能に課題が見られます。	下回っています。
算数B	・示された情報や考え方を読み取ることに課題が見られます。 ・規則性を見付け、それを基に条件に合うものを選択できます。 ・棒グラフや帯グラフを読み取ることに課題が見られます。	全国平均正答率を下回っているものの、昨年度よりも上昇傾向にあります。
理科	・「地球」区分についての課題が見られます。 ・物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを理解しています。 ・実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することに課題が見られます。	下回っています。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情が高まってきており、夢や目標をもって活動しようとしています。 ・朝食を食べている児童の割合が全国平均に比べると低いです。 ・宿題をきちんとする習慣が身に付いてきましたが、宿題以外の学習時間や読書の時間が少ないです。 ・地域について関心はあるものの、地域の行事やボランティアに積極的に参加する児童が少ないです。 ・各教科の学習について「大切」だと考えていますが、「解いてみたい」「もっと知りたい」「調べてみたい」などの意欲に欠ける部分もあります。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 子どもたちが「楽しい」「やってみたい」と感じるような授業づくりを行います。
 - ・掃除後の読書タイムでは、集中して読書させることで、読書の習慣化と楽しさに気付かせます。
 - ・学習の導入で、児童にしっかりと見通しをもたせた上で授業を進めます。
 - ・学習の「めあて」と「まとめ」から、授業の流れが分かるようにします。
- 学習内容の定着を図ります。
 - ・水曜日の6校時を全校一斉の学力タイムとして、国語科、算数科の補充学習を行います。
 - ・給食準備時間に「きらきらタイム」を設け、学力補充を行います。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 3～6年生までは、各学級で自主学習の取組を行います。
 - ・学校だより、学級通信、学級懇談会等を通じて家庭学習や生活習慣の大切さを訴えるとともに、継続的に啓発を行います。
- 本城小学校「生活のきまり」を全家庭に配付し、全職員の共通理解の下、指導を徹底します。
 - ・家庭と密に連絡を取り合い、保護者との共通理解を図ります。
- 地域の行事等の紹介を積極的に行うとともに、地域の方に来校していただき、児童と地域のつながりを深めます。

